「忍耐の向こうに！」ヘブル６：１１－２０　　１８・８・１９

Ⅰ　神が望まれる事、切望

１．：１１。主への信仰、救いの希望についての確信を生涯の最後まで、続ける事。

①「一人ひとりが」＝神と主の教会にとり、一人として大切でない人はいない。一人の落語者も望まれない。

②「最後まで」＝一時的な感情的熱心より、継続が大切。同時に「熱心さを示す」事を喜ばれる。
一時的な感情の熱心ではなく、熱く私達を愛して下さる神の愛を受け、感謝から生まれる神と人への熱い愛による熱心を喜ばれる。神は、教会を表面的な成功で評価されず、真実な愛があるかどうかで評価される（黙２：４－５、３：１５－１９）。

２．：１２。

①「怠け者にならずに」＝神の前に忠実ではなく、怠けて、楽な方法、楽な道を取る人は、一時的に、ごまかせても、長い道のりの積み重ねの実を結ぶ事は出来ない。

②「信仰と」＝救い主なる神を信じ、困難な中でも主を信頼し拠り頼む信仰。
信仰は、順調な時だけではなく、人の力ではどうにもならない時こそ、働かせて使う（神に心から祈り拠り頼む）べきもの。

③「忍耐によって約束のものを受け継ぐ」＝信仰と忍耐により、神が約束された物を受け継いできた人々を見て、励まされ、倣う。
「忍耐」の原語の意：「長く苦しむ」。長く苦しんでも、神を信頼し、神を見上げ、前向きに生きる忍耐。
忍耐の反対は、すぐにあきらめる、逃げる、すぐに投げ出す、怠ける、主に頼り辛抱する事をしない。

Ⅱ　神が私達に望まれる大切な「忍耐」について。

１．神が、成長した人と評価されるバロメーターは、

①善悪の判断力、知恵
（「知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます」ヤコブ１：５）、

②「忍耐」である
（「試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。…信仰が試されると忍耐が生まれます。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります」ヤコブ１：２－４）。
現代人の人への評価は、その人の点数の高さかもしれない。しかし、神は、人の目に映る点数よりも、その人の心にある神の愛から生まれる神と人への愛、忍耐を評価して下さる。

２．現代の技術的発展は、人々に忍耐を生じにくくさせた。忍耐する必要のない、即席の物、自動販売機、すぐ手に入り、すぐ欲しい物が出て来る時代。人を待たせる企業は競争に勝てない。
昔の人が今の人より特別忍耐力があったのではない。ただ、不便（人を待たせる）という環境が、人々に忍耐、耐える、待つということを身に着けさせた。
しかし、昔の人でさえ、それが十分あったわけではない。まして、この便利な世にいる私達は、忍耐（祈りつつ神の時、神の答えを待つ）が身に着きにくい世にいる事を認めなければならない。
信仰生活とは、待つ事、すぐに祈りが答えられない事がある、私達の望む時ではなく、神の時がある事を学び続ける事である。

３．この大切な忍耐を身に着けるには？

①これは、御霊が結ばせて下さる実（ガラテヤ５：２２の「寛容」と同じ原語）。つまり、神と正しい関係になり、心に御霊に満ちていただく時、御霊が私達の心を支配して下さる時に結ばれる実。祈り求めたい。

②Ⅰコリント１３：４の「愛は寛容であり」の寛容は、ここの「忍耐」と同じ原語の動詞形。
つまり、忍耐、寛容は、神が下さる愛から生まれる。苦しみが長引いても愛する忍耐。
③神が自分に対して、どんなに忍耐、寛容をもって救い、赦し、ここまで支えて下さったかを深く思い感謝する（「私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい」Ⅱペテロ３：１５）。
神の忍耐と寛容がなかったら、私達の救いはない。神の忍耐、寛容を感謝します。
④「信仰が試されると忍耐が生まれます」（ヤコブ１：３）。
試練や主の時を待つという苦しみは、忍耐を生む霊的な親。自分の思い通りにならない事は、とてもつらいが、本当は、私達に大切な忍耐を与える為の神の恵みである。

Ⅲ　忍耐して、約束のもの（神の救い、恵み）を得る為の励まし。：１３－２０。

１．：１３，１４。裏切られない神の約束と誓い。
：１４の「あなたを大いに増やす」という神の約束は、今も実現している。
アブラハムの子孫の聖書的な意味は、神を信じる神の民の事。神を信じている私達も含まれている。聖書全体にある神の約束の多くの御言葉を堅く信じて、忍耐して、御心を行おう。
「あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です」１０：３６。

２．「このようにして、アブラハムは忍耐の末に約束のものを得たのです」：１５。
忍耐の向こうに、忍耐の末に、幸い、祝福、喜び、祈りの答え、神の約束の実現、そして、主の再臨、天国がある！
神への信頼を投げ出し、あきらめてはいけない。
アブラハムは、約２５年の忍耐の末に、約束の子、イサクが与えられた。（創世記１２－２２章）。彼は決して完全な人ではなく、多くの失敗もした。しかし、それと同時に、成長しつつ「彼は望み得ない時に望みを抱いて信じ」（ローマ４：１８）た。
時々、神が働いておられることを信じるのが難しい事がある。がっかりする事も多い。しかし、アブラハムから励まされよう。
神は、ご自分のタイミングと方法を持っておられる。

３．「私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり」：１８，１９。
変わらない神の安全で確かな救いの希望という「錨」が与えられている。
世の風潮や波、快楽、暴虐、泥酔、淫らな行い、楽に儲ける誘惑、今の悪の楽しみのみを追求し、後の刈取りを考えない愚かさに、私達人間は流され易い。
しかし、主を信じている私達は、目を覚まし、祈りたい。力強い御言葉による希望という錨が与えられている。毎日、この錨を点検し、しっかりおろそう。
自分の気分や評判を錨とするなら流される。
最終的に頼りになるのは、神の御言葉による真実！

４．：２０。私達の先駆けとして幕の内側（天の至聖所のおける神の臨在＝天国）に入り、永遠にメルキゼデクの位に等しい大祭司、仲介者となられたイエス様がいて下さる。
先駆けとは、教会の頭なる主が先に天国に行かれ、その主の体に連なる私達も、確実に天国に行けるという保証。
この主が天で私たちの為にとりなし、地では私達と共にいて下さる！